

第2次和泉市都市計画マスタープラン

地域別構想素案 検討資料

1. 地域別構想について

(1) 地域別構想とは

和泉市全域を対象とした全体構想と整合を図りつつ、地域ごとの特性や課題を踏まえて、地域の資源を活かした特徴的なまちづくりを展開していくため、地域の将来像やまちづくりの目標、まちづくりの方針を示すものです。

地域特性やコミュニティ環境などから、北部地域、北西部地域、中部地域、南部地域の4地域に分けて、それぞれの構想を定めます。



(2) 地域別構想の位置づけ

広域的かつ全市的な視点から方針を示している全体構想に対して、地域別構想は地域ごとの特性や課題を踏まえて、いわば地域の視点から定めるものです。

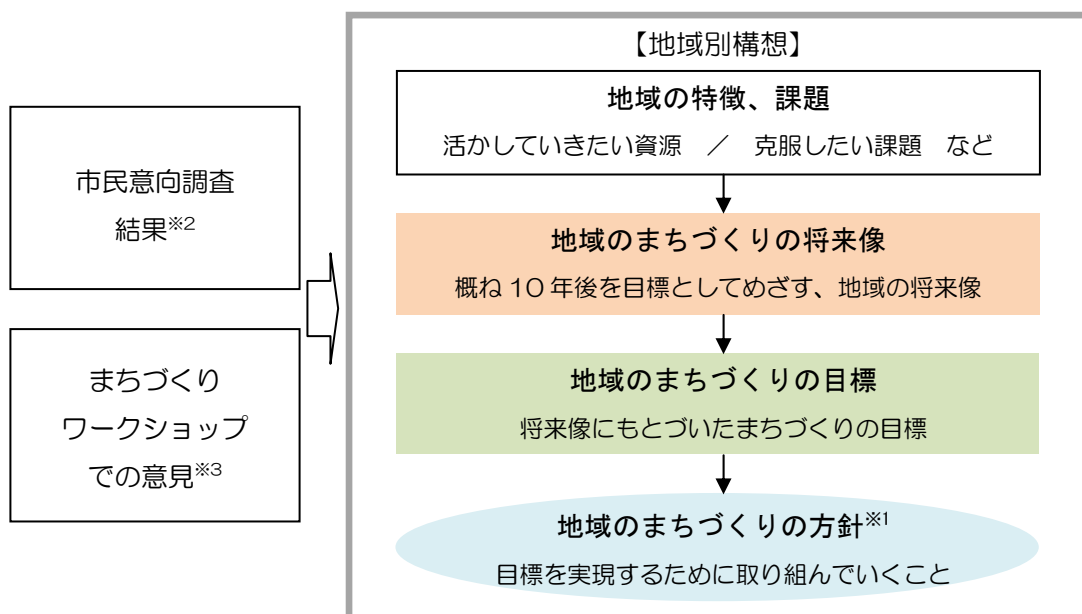
全体構想と整合のとれた、地域ごとに特色のある個性的な計画となります。

(3) 策定プロセスと構成

策定に当たっては、市民意向調査の結果や、まちづくりワークショップでの意見を参考にしつつ、地域の資源と課題を抽出し、地域の将来像を立て、目標とまちづくりの方針を検討しました。

まちづくりの方針は、市と地域が協働で取り組むもの、地域が主体となって取り組むもの、市が主体となって取り組むものを記載しており、公民協働でまちづくりを進めていくこととしています。

策定のプロセスと地域別構想の構成



※1 まちづくりの方針の表現

地域が主体となって取り組むことや、行政と地域が連携しながら協働で取り組むことは「……しましょう」という表現を用いており、行政が主体となって取り組む事業での「……します」とは使い分けています。

※2 和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査

平成26年1月30日～2月28日を調査期間として、和泉市に在住の18歳以上の男女3,000人（住民基本台帳より無作為に抽出）を対象に実施しました（回収率は29.0%）。

※3 まちづくりワークショップ

地域ごとに住民が集まり、地域の現状やまちづくりの目標などについて意見交換しました。
各地域計3回ずつ（平成26年9月、平成26年10月、平成27年2～3月）

2. 地域別構想

(1) 北部地域

①地域の概況

市の北部に位置する本地域は、南側半分は信太山丘陵が広がっており、北側半分は市街地や住宅地となっています。また、惣ヶ池などのため池があります。

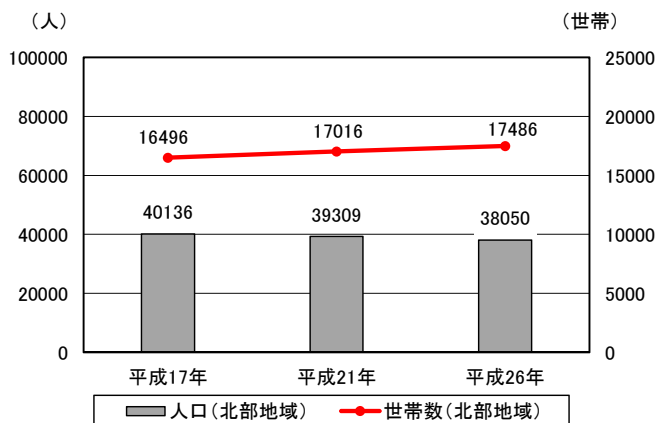
交通では、JR 阪和線信太山駅及び北信太駅があるほか、他市とつながる主要な幹線道路として、第二阪和国道（国道26号）や松原泉大津線が通っています。



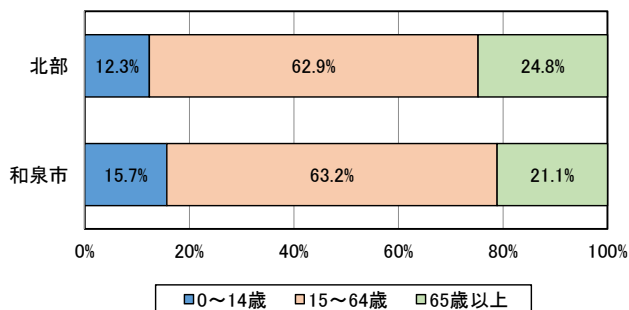
平成26年3月末時点の北部地域の人口は38,050人、世帯数は17,486世帯です。平成17年から平成26年にかけて、人口は減少、世帯数は増加傾向にあります。

年齢別の人口構成は、平成26年3月末時点で、0歳から14歳が12.3%、15歳から64歳が62.9%、65歳以上が24.8%となっており、市の平均的な人口構成と比較すると、やや高齢者の割合が大きい傾向にあります。

人口・世帯数の変化



年齢別の人口構成



出典：住民基本台帳データ（各年3月末時点）
※外国人を含まない

②地域の特徴・資源

本地域は、池上曽根遺跡や和泉黄金塚古墳、聖神社などの多くの寺社や歴史文化遺産、信太山丘陵をはじめとする豊かな自然環境を有しています。信太の森ふるさと館や大阪府立弥生文化博物館など、歴史文化に触れることができる施設があるほか、和泉市の伝統工芸であるガラス工芸の工場や展示場があり、工芸を体験することもできるようになっています。

また平成27年度に、新たな地域の拠点として、北部リージョンセンターをオープンしました。

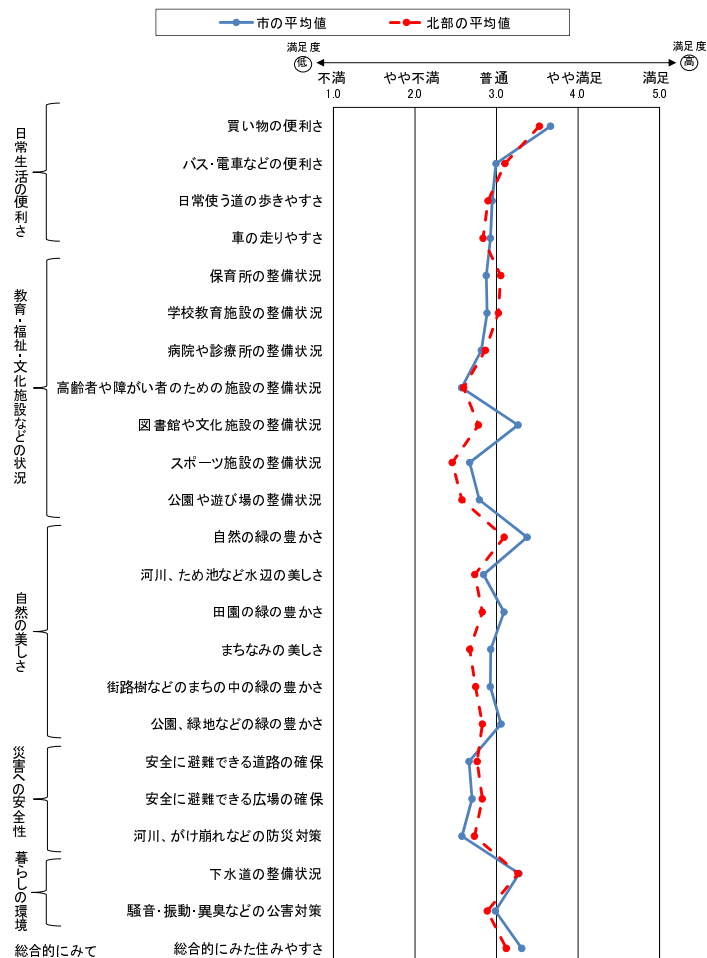
地域の主な資源 (和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査、和泉市観光ガイド、市資料より)

地域で大切にされてきた歴史文化遺産や寺社	池上曽根遺跡、和泉黄金塚古墳、葛葉稻荷神社、蔭涼寺、聖神社、八坂神社
公園、緑、水などの豊かな自然環境	鶴山台志保池公園、信太山丘陵、聖神社周辺の自然、惣ヶ池
歴史的なまちなみや新しいまちなみ、建物	小栗街道のまちなみ、信太の森の鏡池・信太の森ふるさと館、佐竹ガラス、日本人造真珠硝子細貨工業組合展示場、大阪府立弥生文化博物館、JR 駅前（北信太駅、信太山駅）
お祭り・行事	信太山盆踊り、だんじり、信太山クロスカントリー
その他	ガラス細工、人造真珠

③暮らしの満足度（市民意向調査より）

北部地域の暮らしの満足度について、バス・電車などの日常生活の便利さや、保育所、学校教育施設、病院などの教育・福祉施設の整備状況、災害への安全性に関しては、市の平均値より高くなっています。しかし、図書館や文化施設、スポーツ施設、公園などの整備状況、自然の美しさや豊かさにおける満足度に関しては、市の平均値よりも低くなっています。

暮らしの満足度



(和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査より)

④地域の課題

1) 都市・地域の拠点の課題

北信太駅では、駅前周辺の基盤整備が十分とは言えず、バス交通との結節性やアクセス性に問題があります。また両駅周辺では、より快適な住民の生活を支えるため、施設の誘導などが必要となっています。

北部リージョンセンターは、地域の拠点として機能を発揮していく必要があります。

2) 都市基盤・住環境の課題

幅の狭い道路など防災上問題の残る地区では、安全・安心に暮らすためのまちづくりが必要です。特に、幹線道路や生活道路、通学路などにおいては、歩行者や自転車が安全に通行できるようにするための対策が必要です。

鶴山台の住宅地や住宅団地では、建物の老朽化や、今後は居住者の高齢化や空き家の増加が予想されることから、オールドタウン化への対策が必要です。

3) 地域の資源を活かしたまちづくりの課題

信太山丘陵を中心とする自然的資源や、池上曽根遺跡などの歴史的資源が豊富な本地域では、これからもこれらの資源を保全しながら、活用していくことが望めます。これらの資源は点在しているため、一体的に情報発信することで、その魅力を地域内外に伝えていく必要があります。

地域に昔から受け継がれているだんじりや信太山盆踊り等の祭事は、住民間のつながりづくりに貢献するとともに、地域への愛着と誇りを育んできました。今後も住民が地域の文化に誇りを持ちながら暮らし、また地域での共助の活動に取り組んでいくためには、新旧住民の交流の機会を創り出しながら、祭事文化に対して広く住民の理解を得ていく必要があります。

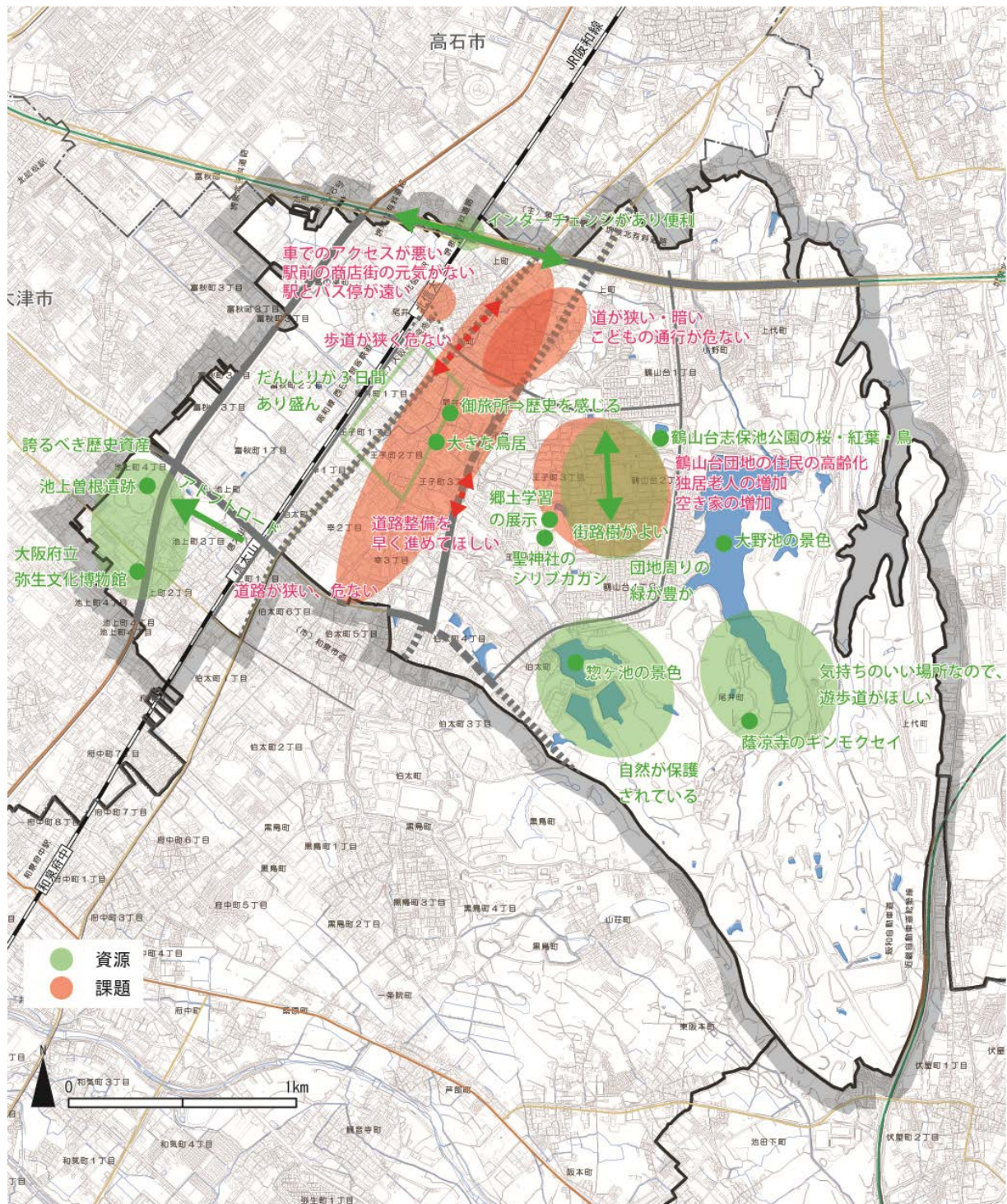
4) 土地利用の課題

低層の戸建住宅や、中高層の共同住宅からなる計画的に開発された住宅地では、これからも良好な住環境の維持保全を行う必要があります。それ以外の既成市街地では、建物が建て詰まっている地区や幅の狭い道路や行き止まり道路が存在しており、これらの問題への対策が必要です。

両駅周辺や北部リージョンセンターなど地域の拠点周辺では、これからも住民の生活利便性を支えるべく、機能の充実を行う必要があります。

信太山丘陵の周辺では、その自然環境を保全するとともに、活用することが重要です。

参考 ワークショップで出された、地域の主な資源と課題についての意見



⑤地域の将来像とまちづくりの目標

地域の将来像

古代からの歴史資源、豊かな自然資源を活かし、誇りと愛着を育むまち

まちづくりの目標

- 1) 駅周辺や地域拠点のまちづくり
- 2) 古い住宅団地や防災上問題のある市街地などでの、安全・安心なまちづくり
- 3) 古代からの歴史、信太山丘陵の自然など資源を守り活かしたまちづくり

⑥まちづくりの方針

1) 駅周辺や地域拠点のまちづくり

ア 北信太駅、信太山駅周辺の利便性を向上します

- ・北信太駅周辺については、駅前広場や駅へのアクセス道路の整備を進めます。また、バス交通との交通結節機能を高めます。
- ・北信太駅、信太山駅周辺では、周辺住民の生活を支える生活利便施設を誘導します。また地域の玄関口として、駅前にふさわしい土地利用の誘導方策について検討するとともに、景観づくりを推進します。

イ 地域の活動拠点となる北部リージョンセンターをめざします

- ・地域住民が集い、親しみの持てる場として整備し、住民による交流のための活動の拠点として機能させていきます。

2) 古い住宅団地や防災上問題のある市街地などでの、安全・安心なまちづくり

ウ 住民の高齢化が進む住宅団地において、より快適な生活環境を整えていきます

- ・老朽化が進み住民の高齢化や空き家の増加が見られる住宅団地では、居住空間の質を向上するためのエレベーターの設置等の大規模な改修や建替えなどを含め、次世代の団地のあり方について検討を進めます。
- ・住民が互いに支え合い、居住満足度を高めるための活動に取り組んでいけるように、交流の機会や場を設けます。
- ・住民の高齢化や人口減少などが進む、鶴山台などの住宅地では、空き家対策や買い物難民対策などのオールドタウン化対策を検討します。

エ 安全・安心なまちづくりを進めます

- ・幅の狭い道路に建物が建て詰まっているなど防災上問題のある市街地では、地域住民と

の連携を図りながら、建物のセットバックによる道路の拡幅など、狭い道路の解消を進めます。

- ・災害時への対応として、空き地等を活用した一時的な避難空間や延焼防止にも役立つ空地（広場的な場所）の確保や、避難路の確保を図ります。
- ・建物の不燃化や耐震化を促進します。

オ 幹線道路や通学路における、交通安全対策を進めます

- ・大阪和泉南線（府道30号線）の整備を促進し、歩行者も安全に通行することのできるよう対策を行います。
- ・一部整備中の（都）大阪岸和田南海線については、未整備区間について整備を促進します。
- ・通学路等については、交通安全施設整備等の手法により、歩行者の通行の安全性を高める対策に取り組みます。

3) 古代からの歴史、信太山丘陵の自然など資源を守り活かしたまちづくり

カ 信太山丘陵や惣ヶ池周辺などの自然を保全し、活用できるように整備を推進します

- ・里山的環境が残る信太山丘陵や、惣ヶ池などのため池は、自然景観の重要な要素としてこれからも保全していきましょう。
- ・信太山丘陵市有地については、市民に身近なレクリエーションの場や貴重種を含む生物生息の場などとして保全・活用を図ります。
- ・聖神社などの神社周辺の自然的環境については、まちなかの貴重な緑として地域全体で保全に努めていきましょう。

キ 地域の歴史的資源を保全するとともに、魅力を発信していきます

- ・池上曾根遺跡、和泉黄金塚古墳は、国や府と連携しながら適切な維持管理を行い、保全していきます。信太の森ふるさと館は、これからも適切に維持管理しながら、地域の文化を広める場として活用していきましょう。
- ・聖神社や葛葉稻荷神社なども合わせ、点在している歴史的資源について、既存の観光マップの一層の活用やインターネットによる情報発信、観光ボランティアによる案内の推進などにより一体的に情報発信することで、その魅力を地域内外に広めていきます。

ク 信太山丘陵や遺跡などの地域資源を活かし、地域活性化に取り組ましましょう

- ・地域の豊かな自然や史跡を舞台に、地域内外の人が楽しめるイベントやレクリエーションを開催し、地域の活性化に取り組んでいきましょう。特に信太山丘陵市有地は、市民の憩いの場、自然体験の場、環境学習の場などとして積極的に活用していきましょう。

ケ 地域住民によって継承されてきた身近な文化や資源を、未来に受け継いでいきましょう

- ・地域の力を結集して取り組まれるだんじり祭りや、聖神社の御旅所など、昔から住民の手によって継承されてきた文化や資源を、これからも受け継いでいきましょう。
- ・小栗街道沿いの、昔からある屋敷や社寺が残る通りでは、歴史的な風情のあるまちなみを意識してつくりだしていきましょう。

コ 新旧住民の交流のきっかけづくりに取り組み、地域の文化への理解を広げ、誇りを育んでいきましょう

- ・公園や緑地の美化活動や、体験学習など、誰もが参加可能な取組みを通じて、地域内の交流を深めましょう。
- ・新しく地域に住み始めた住民も地域コミュニティに参加し担い手となるように、理解を広める案内や周知の活動をしていきましょう。

⑦土地利用の方針

○低層住宅地区

- ・鶴山台や聖神社周辺などの低層住宅地を中心とする地区では、良好な住環境の維持保全・充実を図り、信太山丘陵などの自然環境と調和したゆとりある住宅地を目指します。

○中高層住宅地区

- ・鶴山台団地周辺をはじめとする中高層住宅地を中心とする地区では、周辺の住宅地との調和に配慮しつつ、住環境の維持保全・充実を図り、利便性、安全性、快適性を兼ね備えた住宅地を目指します。
- ・また、鶴山台の住宅団地では、次世代の団地のあり方について検討を進めます。

○住宅市街地地区

- ・住宅を中心とする地区では、良好な住宅地の環境を整えるため宅地開発などを適切に規制誘導するとともに、道路や公園緑地などの整備を図り、良好な市街地を目指します。
- ・道が狭く建物が建て詰まっている市街地では、建物の不燃化・耐震化のほか、道路空間や空閑地の確保などを図り、安全な市街地を目指します。
- ・古くから住宅が集まっている地区では、道路空間や空閑地の確保を図り、安全で快適な住環境を目指します。

○近隣商業地区

- ・北信太駅および信太山駅周辺の地区では、周辺住民の生活を支える生活利便施設の誘導や、土地利用の規制誘導の検討、景観形成などを図り、地域の玄関口にふさわしい市街地を目指します。
- ・北信太駅周辺では、駅前広場や駅へのアクセス道路の整備を図り、交通結節機能の高い市街地を目指します。

○沿道サービス地区

- ・国道26号沿道については、商業・業務、その他産業機能の集積を図り、市民生活の利便性を高める市街地を目指します。

○自然丘陵地区

- ・信太山丘陵では、豊かな自然環境を保全し活用できるよう整備を推進し、市民が憩い様々な体験ができる自然的環境を目指します。



(2) 北西部地域

① 地域の概況

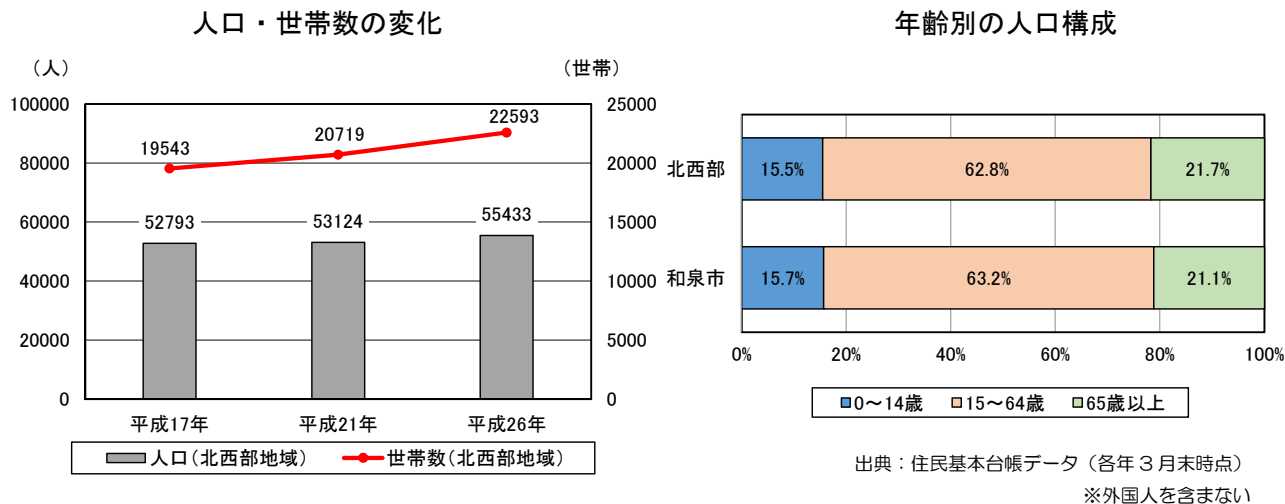
市の北西部に位置する本地域は、市の中心となる公共施設や商業地域などの集積地と、その周辺の住宅地及び農地により構成されており、古くから市の中心都市拠点としての役割を担ってきた地域です。

また、榎尾川、松尾川の2つの河川が山から海へと地域を貫流するとともに、大阪から和歌山をつなぐ主要な交通として、JR 阪和線及び第二阪和国道（国道26号）が地域を通っています。



平成26年3月末時点の北西部地域の人口は55,433人、世帯数は22,593世帯です。平成17年から平成26年にかけて、人口、世帯数ともに増加傾向にあります。

平成26年3月末時点の北西部地域の年齢別の人口構成は、0歳から14歳が15.5%、15歳から64歳が62.8%、65歳以上が21.7%となっており、市の平均的な人口構成とほぼ同じ傾向にあります。



② 地域の特徴・資源

地域内には、和泉国府跡や泉井上神社、禅寂寺、西福寺雷井戸などの歴史文化遺産があるとともに、小栗街道沿いには古くからのまちなみが残っています。黒鳥山公園は、桜の名所として市民に親しまれ、開花時期には多くの人で賑わいます。

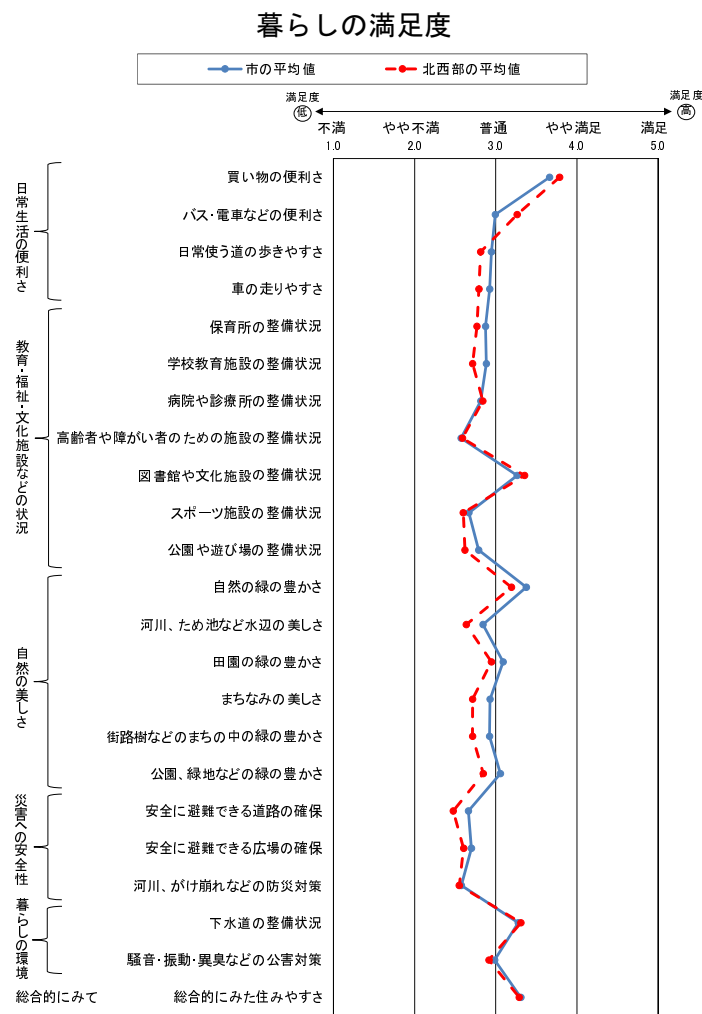
また、本市の拠点として和泉市役所、和泉市コミュニティセンターが立地しています。

地域の主な資源 (和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査、和泉市観光ガイド、市資料より)

地域で大切にされてきた 歴史文化遺産や寺社	観音寺城跡、観音寺山遺跡、和泉国府跡、泉井上神社、郷荘神社、禅寂寺、西福寺雷井戸
公園、緑、水などの豊かな 自然環境	黒鳥山公園、槇尾川
歴史的なまちなみや新しい まちなみ、建物	小栗街道沿いのまちなみ、和泉府中駅前の現代的な景観
お祭り・行事	自衛隊まつり、だんじり
その他	信太山駐屯地

③暮らしの満足度 (市民意向調査より)

北西部地域の暮らしの満足度について、買い物やバス・電車などの日常生活の便利さ、病院や福祉施設、図書館や文化施設の整備状況に関しては、市の平均値と同程度か高い値にあります。しかし、日常使う道の歩きやすさや車の走りやすさ、災害への安全性などに関しては、市の平均値より低くなっています。



(和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査より)

④地域の課題

1) 都市・地域の拠点の課題

和泉府中駅前では、駅前広場やアクセス道路の整備と市街地再開発事業が完成し、本市の玄関口としての整備が進みました。今後さらに周辺市街地の改善や商店街等の魅力向上など、駅前整備の効果を周辺に波及していくことが必要となっています。併せて、整備された駅前広場により、公共交通の利便性を高めることも求められます。

また、既存の公共公益施設や、移転・建替される市立病院などを活かした、本市の中心都市拠点にふさわしい利便性と快適性を整える必要があります。

2) 都市基盤・住環境の課題

良好な住環境を形成している地区では、今後ともその維持保全が求められます。

幅の狭い道路に建物が建て詰まっているなど防災上問題の残る地区では、安全・安心に暮らすためのまちづくりが必要です。幹線道路や生活道路、通学路などでは、歩行者や自転車の交通安全対策が必要です。

また、小規模な事業所や商店、住宅等が混在する地区では、良好な住環境と操業環境の形成に向けて土地利用を調整する対策が求められます。

3) 地域の資源を活かしたまちづくりの課題

黒鳥山公園、榎尾川や松尾川といった自然的要素のほか、和泉国府跡や小栗街道のまちなみなどの歴史文化的要素、あるいはだんじりなどの市民文化的要素など、地域にある多様な資源を保全しながら活用していくことが求められます。これらの資源は点在しており、一体的に情報発信し魅力を伝えていくことも必要です。また、こうした取組みを通じて、住民間のつながりづくりに貢献するとともに、地域への誇りと愛着を育み、良好な地域コミュニティの形成に役立てることも望まれます。

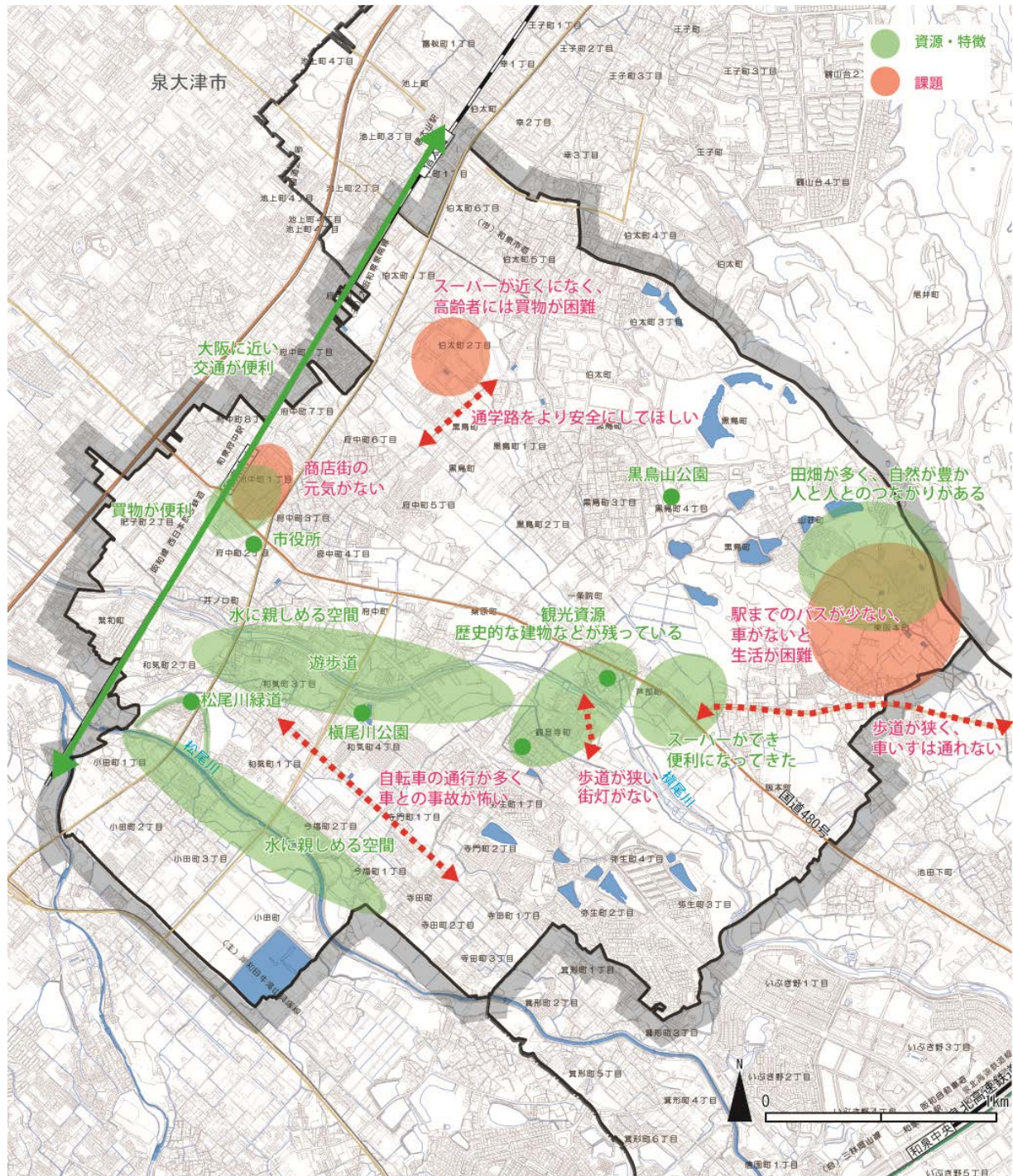
4) 土地利用の課題

既成市街地においては良好な住環境の維持保全を図るほか、地区の防災性の向上や多様な用途の秩序ある共存、あるいは周辺と調和する地区景観の形成など、地区の状況に応じた土地利用や景観上の対策が必要です。

市街化調整区域では、農地の保全や無秩序な土地利用の防止など、市街地に近い田園環境として良好な環境と景観の形成が必要です。

榎尾川や松尾川沿いでは、農地やため池、樹林地等の自然的環境の保全・活用が重要です。

参考 ワークショップで出された、地域の主な資源と課題についての意見



⑤地域の将来像とまちづくりの目標

地域の将来像

中心都市拠点としての機能が充実し、みどり豊かな空間や魅力的な地域資源を活かすまち

まちづくりの目標

- 1) 中心都市拠点、医療拠点としてのまちづくり
- 2) 良好な住環境と働く場が調和したまちづくり
- 3) みどり豊かな環境や地域資源を活かすまちづくり

⑥まちづくりの方針

1) 中心都市拠点、医療拠点としてのまちづくり

ア 和泉府中駅周辺の都市機能の充実を図ります

- ・和泉府中駅周辺の市街地再開発事業の完成を踏まえ、さらに周辺地区への波及を図り、商業・業務施設、サービス施設の充実や市街地環境の改善などを促進します。
- ・駅前の賑わい創出と併せて都市の顔となる景観の形成にも取り組み、都市イメージの向上にも取り組みます。

イ 交通結節点にふさわしい交通利便性を高めます

- ・大阪和泉南線や（都）大阪岸和田南海線など幹線道路の整備を促進します。
- ・整備された駅前広場を使って公共交通の結節機能を高め、交通利便性の高いまちづくりを行います。
- ・地域の状況や住民ニーズに対応した利便性の高いバスネットワークの形成を図ります。

ウ 公共施設を活かした活発な市民活動を促進します

- ・市役所、コミュニティセンター、和泉図書館（フチャール和泉内）などの公共施設を活かし、例えば子育て支援のための地域の活動を支援します。さらに全市的な市民活動の拠点となるよう、活動の支援・促進を図ります。

エ 市民のニーズに応え健康と生活を守る医療拠点の形成を図ります

- ・槇尾川公園隣接地において市立病院を建替え、「ホスピタルパーク」として公園と一体化した整備を行います。
- ・患者や市民のニーズに対応した医療拠点の形成を図り、介護・福祉との連携を一層充実します。

2) 良好な住環境と働く場が調和したまちづくり

オ 良好な住環境の保全・育成を図ります

- ・良好な住環境を形成している戸建住宅地や集合住宅地では、住民の意識啓発や住民主体のまちづくり活動の支援等を行い、土地利用や生活環境に関するルールづくりなどにより、良好な住環境や景観の保全・育成を促進します。

カ 安全・安心なまちづくりを進めます

- ・幅の狭い道路に建物が建て詰まっているなど防災上問題のある市街地では、地域住民との連携を図りながら、建物のセットバックによる道路の拡幅など、狭い道路の解消を進めます。
- ・災害時への対応として、空き地等を活用した一時的な避難空間や延焼防止にも役立つ空閑地（広場的な場所）の確保や、避難路の確保を図ります。
- ・建物の不燃化や耐震化を促進します。

キ 働く場と住環境の調和を促進します

- ・工場や事業所と住宅が混在する市街地や、農地に近接して住宅がある地区では、地域との連携を図りながら、土地利用や生活環境に関するルールづくりなどにより、働く場と住環境の調和を促進します。

ク 幹線道路や通学路における、交通安全対策を進めます

- ・大阪和泉泉南線や（都）大阪岸和田南海線の整備を促進し、歩行者や自転車の交通安全性を高めます。
- ・通学路等については、交通安全施設整備等の手法により、歩行者の通行の安全性を高める対策に取り組みます。

3) みどり豊かな環境や地域資源を活かすまちづくり

ケ みどり豊かな生活環境を保全・創出していきます

- ・黒鳥山公園、槇尾川や松尾川、市街化調整区域の農地などを保全・活用し、潤いある生活環境とゆとりのある景観を形成します。
- ・和泉府中駅周辺や公共施設の緑化を図るとともに、地区計画等のまちづくりルールを定めることにより住宅地の緑化を推奨するなど、地域の緑化を促進します。

コ 地域らしさを感じさせる身近な文化や資源を、未来に受け継いでいきましょう

- ・地域の力を結集して取り組まれるだんじり祭りや、和泉国府跡、黒鳥山公園、槇尾川や松尾川など、地域らしさを感じさせる身近な文化や資源を、これからも受け継いでいきましょう。
- ・小栗街道沿いの、昔からある屋敷や社寺が残る通りでは、歴史的な風情のあるまちなみを意識してつくりだしていきましょう。

サ 地域住民の交流と地域文化への理解を広げ、我がまちへの誇りと愛着を育んでいきましょう

- ・公園や緑地、河川等の維持管理や、それらを使った体験学習など、まちづくりに関わりながら地域内の交流を深めましょう。
- ・新しく地域に住み始めた住民も地域コミュニティに参加し担い手となるように、住民相互の理解を広め、誇りと愛着を育むまちづくり活動をしていきましょう。
- ・自治会館や公園などの身近な場所で、子どもを地域住民が見守り育むような、子育てを応援する取り組みを行いましょう。

⑦土地利用の方針

○低層住宅地区

- ・弥生町や山荘町などの低層住宅地区では、良好な住環境の維持保全・充実を図るとともに、さらに住民の意向を踏まえルール作りなどに取り組むことにより、周辺の斜面緑地や丘陵などの自然環境と調和したゆとりある住宅地を目指します。

○中高層住宅地区

- ・和泉府中駅周辺や幹線道路沿道などの中高層住宅地を中心とする地区については、周辺の住宅地との調和に配慮しつつ、住環境の維持保全・充実を図り、利便性、安全性、快適性を兼ね備えた住宅地を目指します。

○住宅市街地地区

- ・住宅を中心とする地区では、良好な住宅地の環境を整えるため宅地開発などを適切に規制誘導するとともに、道路や公園緑地などの整備を図り、良好な市街地を目指します。
- ・道が狭く建物が建て詰まっている市街地では、建物の不燃化・耐震化のほか、道路空間や空地の確保などを図り、安全な市街地を目指します。
- ・古くから住宅が集まっている地区では、道路空間や空地の確保を図り、安全で快適な住環境を目指します。
- ・農地に近接して住宅がある地区では、営農環境の保全に努め、農地と住宅地の調和を目指します。

○商業・業務地区

- ・和泉府中駅周辺から市役所周辺にかけての地区では、商業・業務施設の誘導や、文化・福祉・保健・医療などの多様な公共公益的施設の立地を図り、中心都市拠点にふさわしい土地利用を目指します。

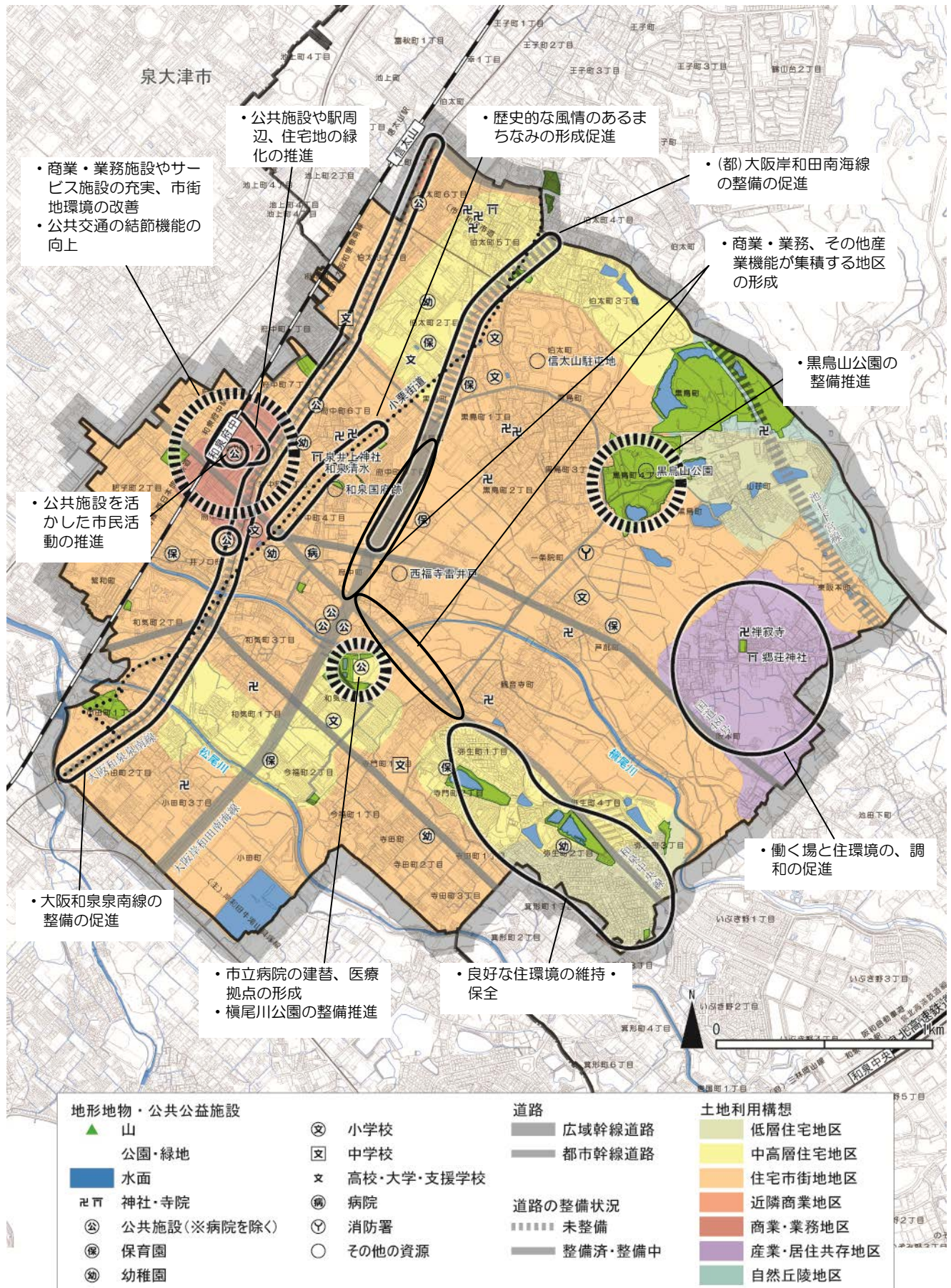
○産業・住居共存地区

- ・工場や事業所と住宅が混在する市街地では、地域の合意形成を図りながら、土地利用や生活環境に関するルールづくりなどにより、働く場と住環境の調和を目指します。
- ・まとまった住宅地の形成が進む地区では、住居系の用途地域への変更を検討するなど、住環境の形成を目指します。

○その他

- ・槇尾川沿いなどに広がる市街化調整区域では、農地の保全、無秩序な土地利用の抑制、田園景観の継承などを図り、みどり豊かな土地利用を目指します。
- ・（都）大阪岸和田南海線、（都）和泉中央線沿道については、市民生活の利便性を高める地区として、商業・業務、その他産業機能が集積する地区の形成を図ります。

地域別まちづくり方針図（北西部地域）



(3) 中部地域

①地域の概況

市の中部に位置する本地域は、南北に長い本市中央の丘陵部分に位置し、丘陵部では、大規模開発により整備されたニュータウンが広がるとともに、谷部に古くからの市街地が形成されています。

中央部に位置する泉北高速鉄道と泉中央駅周辺では、商業やサービス機能の集積がみられ、新たな拠点としての役割を果たしつつあります。また、阪和自動車道、市内外をつなぐ幹線道路が走っており、産業拠点としての性格を有している地区もあります。

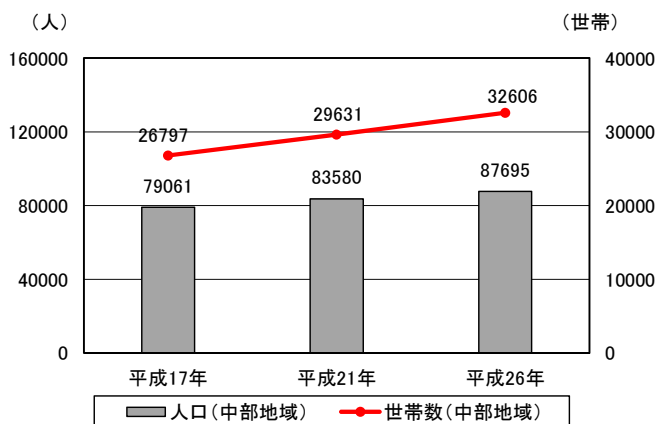
泉北高速鉄道や阪和自動車道により、広域交通のネットワークを形成しています。

平成26年3月末時点の中部地域の人口は87,695人、世帯数は32,606世帯です。平成17年から平成26年にかけて、人口、世帯数ともに増加傾向にあります。

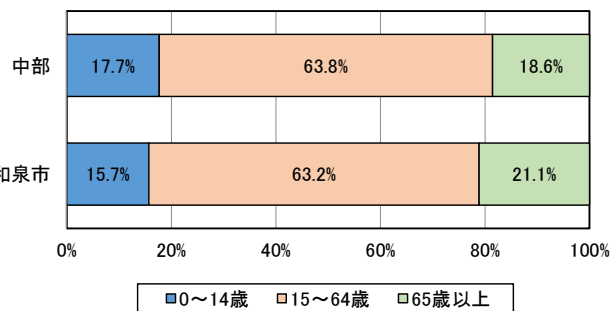
平成26年3月末時点の中部地域の年齢別の人口構成は、0歳から14歳が17.7%、15歳から64歳が63.8%、65歳以上が18.6%となっており、市の平均的な人口構成と比較すると、やや若い世代の割合が大きい傾向にあります。



人口・世帯数の変化



年齢別の人口構成



出典：住民基本台帳データ（各年3月末時点）
※外国人を含まない

②地域の特徴・資源

中央公園や宮ノ上公園、松尾寺公園、光明池緑地などの公園緑地、光明池をはじめとしたため池や丘陵部の山林など、自然環境が豊かな地域です。

また、和泉中央駅周辺では、新しい商業施設や住宅地など、計画的に開発されたまちなみが見られます。他にも、久保惣記念美術館やいずみの国歴史館が立地しており、貴重な美術や歴史に触れることができます。地域の拠点として和泉シティプラザが立地しており、多様な市民活動の場として利用されています。

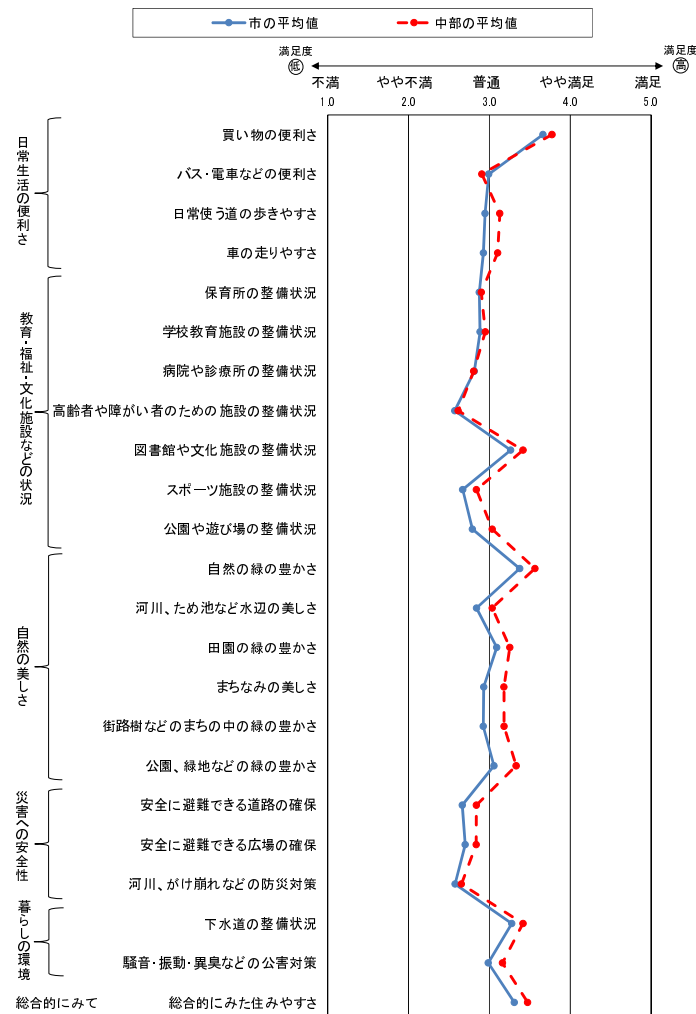
地域の主な資源 (和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査、和泉市観光ガイド、市資料より)

地域で大切にされてきた 歴史文化遺産や寺社	松尾寺
公園、緑、水などの豊かな 自然環境	中央公園、和泉リサイクル環境公園、宮ノ上公園、光明池緑地、 くすのき公園、松尾寺公園、コスモ中央公園、光明池、谷山池、 槇尾川、松尾川、ふるさとの川（通称：内田町ひつじ公園）、 納花トンネル以南ののどかな田園の風景、黒石大橋からの山の 景色、ホタルが生息するまち
歴史的なまちなみや新しい まちなみ、建物	和泉中央駅周辺の美しいまちなみ、久保惣記念美術館、泉北高 速鉄道光明池車庫、和泉シティプラザ、いずみの国歴史館、大 阪府立産業技術総合研究所
お祭り・行事	ジャズストリート、だんじり

③暮らしの満足度（市民意向調査より）

中部地域の暮らしの満足度について、日常生活の便利さや教育・福祉・文化施設などの整備状況、自然の美しさ、災害への安全性など、ほぼ全ての項目において市の平均値よりも高い値となっています。ただし、対象となる地域が広く、居住する地区によって生活環境の特徴が異なるため、満足度にはばらつきがあることが考えられます。

暮らしの満足度



(和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査より)

④地域の課題

1) 都市・地域の拠点の課題

和泉中央駅周辺においては、これからも都市機能の充実が必要です。駅周辺の道路では渋滞や、歩行者の交通安全対策が必要です。

工場などが集積する地区では、これからも産業機能の誘致・集積が求められます。

文化施設や大学などが集積するまなびの拠点では、そのさらなる機能充実や、市民に対する生涯学習の機会づくりなどが求められます。

2) 都市基盤・住環境の課題

ニュータウンなどの計画的に整備された住宅地では、ゆとりのある整った住宅地としての価値や緑豊かなまちなみなど、良好な住環境を維持するための取組みが求められます。また今後は、居住者の高齢化や空き家の増加が予想されることから、オールドタウン化への対策が必要です。

既成市街地では、良好な住環境と操業環境の形成に向けて土地利用を調整する対策が求められます。幅員の狭い幹線道路については、安全性の確保が必要です。

集落では、生活道路や通学路における安全性の確保や、農地や周辺の自然空間と調和した景観形成が求められます。

3) 地域の資源を活かしたまちづくりの課題

松尾寺公園や光明池、榎尾川や松尾川、ため池などの豊かな自然環境をこれからも保全し、地域住民のより豊かな生活のために活用していくことが必要です。農地については、営農環境の保全や休耕地の有効活用が必要となっています。新たにつくられるニュータウンや中高層住宅地、または住民が減少している地域などでは、住民間のつながりの形成が必要です。住民間の関係性を築き、防災や子育て支援などの地域の課題に取り組んでいくことが望まれます。

4) 土地利用の課題

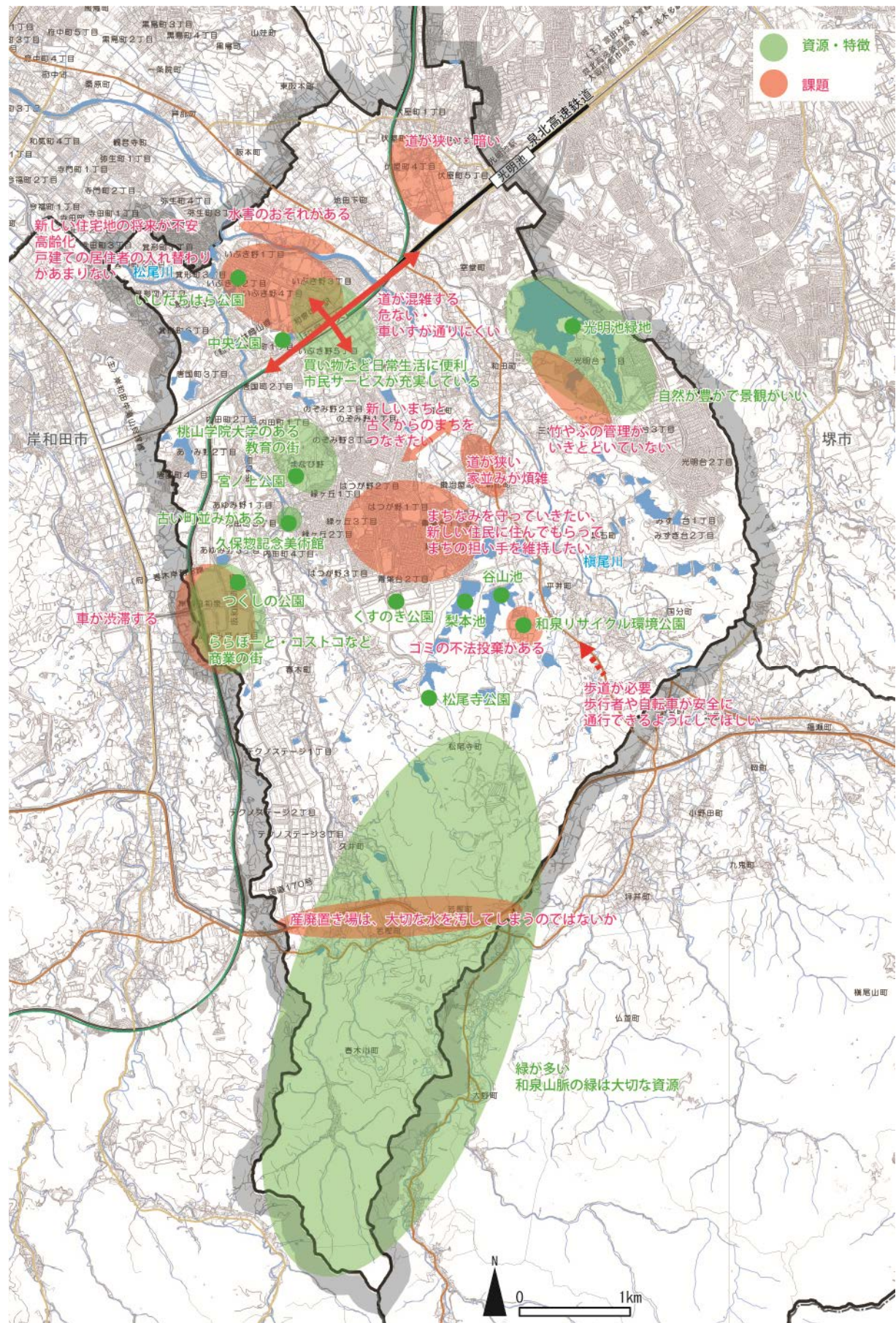
ニュータウンでは、今後も周辺環境と調和したゆとりある良好な住環境の維持保全・充実が必要です。

既成市街地においては良好な住環境の維持保全を図るほか、地区の防災性の向上や多様な用途の秩序ある共存、あるいは周辺と調和する地区景観の形成など、地区の状況に応じた土地利用や景観上の対策が必要です。

産業が立地する地区においては、操業環境の充実などが求められます。

市街化調整区域などの田園や里山を中心とする地区では、農地の保全や無秩序な土地利用の防止など、市街地に近い田園環境として良好な環境と景観の形成が必要です。

参考 ワークショップで出された、地域の主な資源と課題についての意見



⑤地域の将来像とまちづくりの目標

地域の将来像

住宅地、市街地、集落の多様な魅力が混ざり合った、住み心地のいいまち

まちづくりの目標

- 1) 都市拠点、産業拠点、まなびの拠点としてのまちづくり
- 2) 住宅地、市街地、集落のそれぞれの魅力を高めるまちづくり
- 3) 自然環境を活かし、地域の交流をつくりだすまちづくり

⑥まちづくりの方針

1) 都市拠点、産業拠点、まなびの拠点としてのまちづくり

ア 和泉中央駅周辺の都市機能の充実を図ります

- ・周辺住民の日常生活の拠点として、和泉シティプラザなどにおける公共サービス機能、文化機能を充実します。また商業機能など来訪者に対する機能の維持充実を図ります。
- ・駅周辺へのアクセス性を高めるため、(都) 泉州山手線や和泉中央線における渋滞の原因を分析するとともに、渋滞解消の方策を検討します。また駅周辺での歩行者の安全性確保のため、交通安全の意識啓発などの対策に努めます。
- ・地域の状況や住民ニーズに対応した利便性の高いバスネットワークの形成を図ります。

イ トリヴェール和泉西部地区やテクノステージ和泉などに、産業機能の集積を図ります

- ・阪和自動車道の岸和田和泉インターチェンジに隣接するという、交通利便性の高い立地を活かし、工業・流通、商業等の産業機能の集積を進めます。
- ・特に、トリヴェール和泉西部地区においては、土地利用計画に基づき、土地利用の誘導を進めます。

ウ まなびの拠点の機能充実を図ります

- ・久保惣記念美術館、いずみの国歴史館などの文化施設において、教育・研究・文化機能等のさらなる充実を図ります。
- ・これらの教育や文化施設に加え桃山学院大学などと連携し、和泉シティプラザなどの施設を活用して、大人も子どもも学ぶことができるような生涯学習の機会づくりを進めます。
- ・久保惣記念美術館周辺の、昔ながらの屋敷が残る地区については、その落ち着いたまちなみを保全するため、周辺との調和に配慮した景観づくりに取り組みましょう。

2) 住宅地、市街地、集落のそれぞれの魅力を高めるまちづくり

エ ニュータウンなどの計画的な住宅地では、良好な住環境の維持向上のための取組みを進めます

- ・良好な景観が整備されている住宅地では、ゆとりのある整った住宅地としての価値や緑豊かなまちなみを維持するため、まちなみ地区や地区計画制度を活用し、敷地規模の一定の確保や庭先の緑化などについての、住民発意のルールづくりなどのまちづくりを支援します。
- ・住民の高齢化や人口減少などが進む、光明台や青葉台、緑ヶ丘などの住宅地では、住民や事業者とともに、住み替えの仕組みづくりなどのオールドタウン化対策を検討します。
- ・道路や公園、街路樹などの適切な維持管理を行います。
- ・適切な学習環境を整えるため、トリヴェール和泉はつが野地区において、小中一貫校を整備します。

オ 既成市街地では、安全で利便性の高い市街地の形成に向けたまちづくりを進めます

- ・住居系用途が立地する地区では、良好な住宅地の環境を整えるため宅地開発などを適切に誘導するとともに、道路や公園緑地などを整備し、まちの基盤を整えます。
- ・工場や事業所と住宅が混在する市街地や、農地に近接して住宅がある地区では、地域との連携を図りながら、土地利用や生活環境に関するルールづくりなどにより、働く場と住環境の調和を促進します。
- ・国道 480 号や和田福泉線については、交通安全施設整備等の手法により、歩行者・自転車の通行の安全性を高める対策に取り組みます。

カ 集落では、持続可能で良好な住環境の保全・創造を進めます

- ・幅の狭い道路では、住民との連携を図りながら、建物のセットバックによる拡幅など、避難路の確保に努めます。
- ・通学路等については、交通安全施設整備等の手法により、歩行者の通行の安全性を高める対策に取り組みます。
- ・周辺に存在する農地や山林などの自然環境との調和に配慮した景観づくりに取り組みましょう。
- ・市街化調整区域の集落では、市街化を抑制する方向性を基本としつつ、人口減少下における集落機能の維持のため、U・I ターンや田舎暮らし希望者等の誘致施策や空き家活用施策に取り組みます。また、定住を促す開発等の規制・誘導のあり方について検討します。

3) 自然環境を活かし、地域の交流をつくりだすまちづくり

キ 松尾寺公園や光明池緑地、槇尾川や松尾川、ため池などの自然環境を保全し、活用します

- ・自然と触れ合うことのできる空間として、松尾寺公園の整備を進めます。また、光明池緑地の適切な維持管理を行います。
- ・槇尾川や松尾川については、周辺に存在する農地や樹林地とともに、市民が身近に触れられる自然環境として保全し、親水空間としての整備を図ります。また槇尾川や松尾川の、水害の恐れのある箇所については、防止のための整備・対策を行います。
- ・河川空間やため池周辺における美化活動や環境学習などに取り組み、うるおいが感じられるまちにしていきたいと思います。

ク 農地を保全し、多面的に活用します

- ・農地については、市街化調整区域内では農産物生産の場として、営農環境の保全を進めます。市街化区域の農地は様々な機能を持つ緑のオープンスペースとして維持するとともに、市民農園などに活用し市民が農とふれあうことができる場として活用します。

ケ 住民どうしの、交流の機会づくりに取り組みましょう

- ・住民どうしのつながりがまだ十分に形成されていないニュータウンなどの地区においては、例えば周辺の自然環境を楽しむレクリエーションや、地区のイベントや行事に取り組み、地域内の住民の交流の機会をつくりだしましょう。
- ・ニュータウンと集落など、住宅地としての特徴の異なる地域の間では、小学校区単位での行事やイベントをきっかけとして、河川周辺などの公共空間を活用しながら地域間交流の機会をつくりだしましょう。

コ 地域住民が主体となって、安全・安心・快適な暮らしを支えるまちづくりに取り組みましょう

- ・避難訓練の実施や、緊急時に避難・救援を行うための自主的な組織づくりなど、安全・安心なまちづくりに取り組みましょう。
- ・子育て層が多く居住するニュータウンでは、自治会館や公園など身近な場所で、子どもを地域住民が見守り育むような、子育てを応援する取り組みを行いましょう。

⑦土地利用の方針

○低層住宅地

- ・いぶき野やはつが野、青葉台、緑ヶ丘、光明台などの低層住宅地を中心とする地区では、落ち着いた住環境の適切な維持保全や充実を図り、ニュータウンを取り巻く斜面緑地や光明池周辺の緑地など、周辺環境と調和したゆとりある良好な住宅地を目指します。

○中高層住宅地

- ・和泉中央駅の周辺や光明台、いぶき野の一部など、中高層住宅地を中心とする地区では、同じく周辺の環境や住宅地との調和に配慮しつつ、住環境の維持保全・充実を図り、利便性、安全性、快適性を兼ね備えた住宅地を目指します。
- ・のぞみ野のうち、商業・業務機能と中高層住宅が立地する地区では、適度に高度利用された、にぎわいと住環境が共存する市街地を目指します。

○住宅市街地地区

- ・住宅を中心とする地区では、良好な住宅地の環境を整えるため宅地開発などを適切に規制誘導するとともに、道路や公園緑地などの整備を図り、良好な市街地を目指します。
- ・道が狭く建物が建て詰まっている市街地では、建物の不燃化・耐震化のほか、道路空間や空地の確保などを図り、安全な市街地を目指します。
- ・古くから住宅が集まっている地区では、周辺の農地や山林等との調和に配慮しつつ、道路空間や空地の確保を図り、安全で快適な住環境を目指します。

○商業・業務地区

- ・和泉中央駅周辺では、公共サービス機能や文化機能の充実を図るとともに、商業機能など来訪者に対する機能も維持充実を図り、都市拠点にふさわしい市街地を目指します。
- ・光明池駅周辺では、隣接する堺市と連携しながら商業機能などの維持充実を図り、周辺住民の生活利便性を支える市街地を目指します。

○産業・住居共存地区

- ・工場や事業所と住宅が混在する市街地では、地域の合意形成を図りながら、土地利用や生活環境に関するルールづくりなどにより、働く場と住環境の調和を目指します。
- ・まとまった住宅地の形成が進む地区では、住居系の用途地域への変更を検討するなど、住環境の形成を目指します。
- ・幹線道路沿道に商業施設や事業所、工場が立地する地区では、景観の混乱を防ぎ、秩序ある沿道空間を目指します。
- ・農地に近接して住宅がある地区では、営農環境の保全に努め、農地と住宅地の調和を目指します。

○産業地区

- ・トリヴェール和泉西部地区やテクノステージ和泉などの産業が立地する地区では、計画的な企業の誘致や、操業環境の充実を図り、良好な操業環境のある魅力的な産業集積地を目指します。

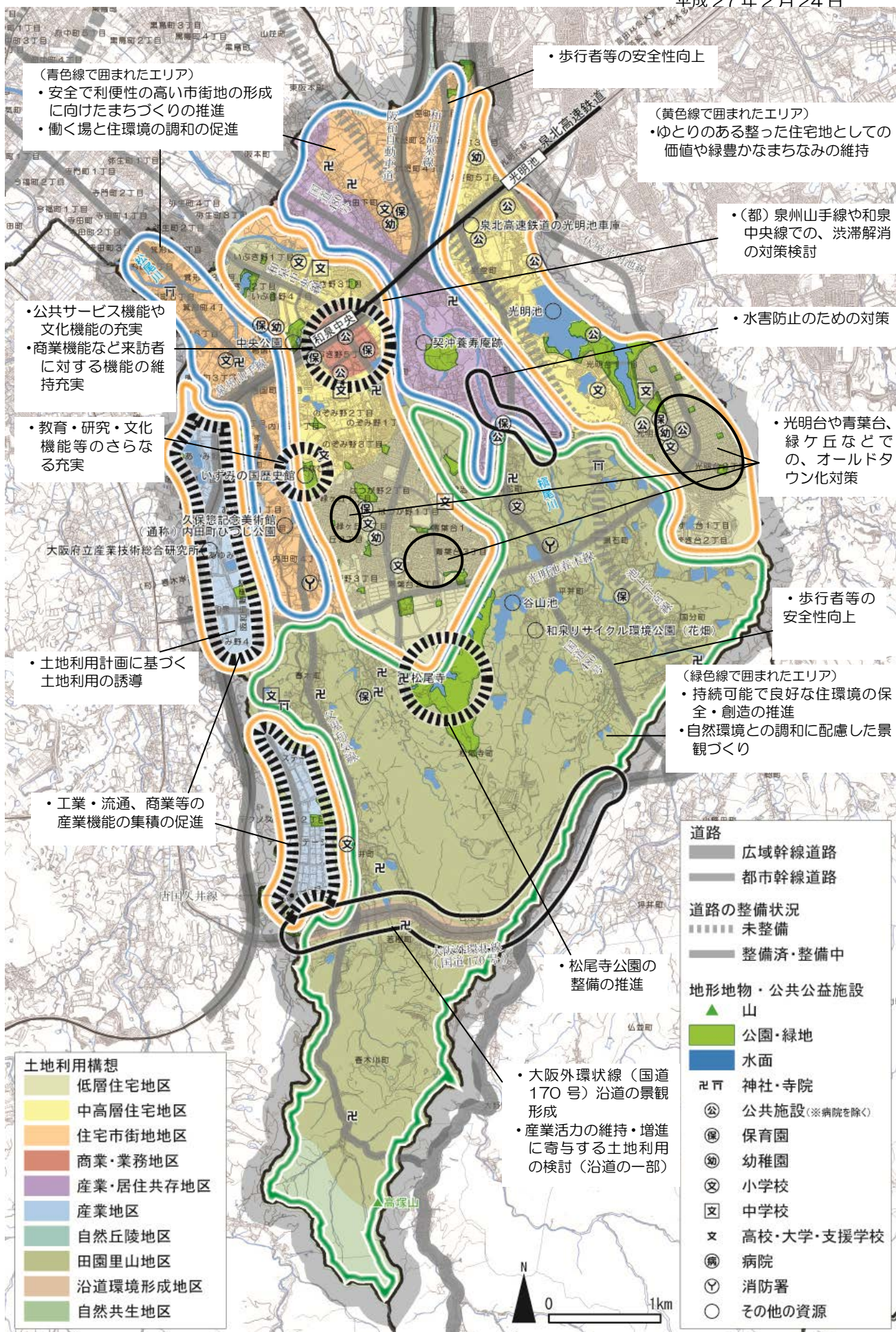
- ・トリヴェール和泉西部地区周辺では、周辺の農地や住宅地などに配慮しながら、商業核の立地による波及効果を活かした沿道施設等が立地する、利便性の高い市街地を目指します。

○田園里山地区

- ・市街化調整区域の田園や里山では、農地の保全、無秩序な土地利用の抑制、田園景観の継承などを図り、みどり豊かな土地利用を目指します。また、気軽に自然と触れあえるレクリエーションの場、自然観察・体験の場、生物生息空間など多面的な活用を図ります。一部の地区では、市街化は基本的に抑制しつつも定住を促す開発等の規制・誘導のあり方について検討し、人口が維持される持続可能な集落を目指します。
- ・集落では、幅の狭い道路対策などを図り、持続可能で良好な住環境を目指します。

○沿道環境形成地区

- ・国道170号沿道では、景観形成や土地利用の規制誘導について検討するとともに、広域交通利便性を活かした産業活力の維持・増進に寄与する土地利用について検討を進めます。



(4) 南部地域

①地域の概況

市の南部に位置する本地域は、地域の大部分が和泉山脈に属しており、谷筋に集落や田畑が分布する地域です。地域の南部には、豊かな自然環境が残されており、金剛生駒紀泉国定公園に指定されています。

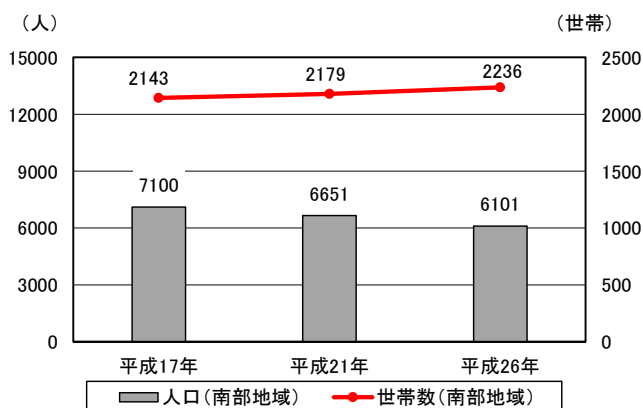
他市とつながる幹線道路として、大阪外環状線（国道170号）が通っています。



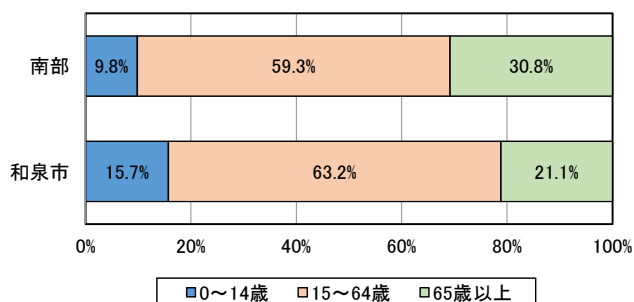
平成26年3月末時点の南部地域の人口は6,101人、世帯数は2,236世帯です。平成17年から平成26年にかけて、人口は減少、世帯数は増加傾向にあります。

平成26年3月末時点の南部地域の年齢別の人口構成は、0歳から14歳が9.8%、15歳から64歳が59.3%、65歳以上が30.8%となっており、市の平均的な人口構成と比較すると、高齢者の割合が大きい傾向にあります。

人口・世帯数の変化



年齢別の人口構成



出典：住民基本台帳データ（各年3月末時点）

※外国人を含まない

②地域の特徴・資源

和泉山脈の山林に囲まれており、その豊かな自然環境を活かし、自然学習やレクリエーション体験が可能な和泉市青少年の家や槇尾山グリーンランド、いずみふれあい農の里が立地しています。槇尾山施福寺は、西国三十三所の札所として、毎年多くの人たちが参拝に訪れます。

また、本地域には、和泉市南部リージョンセンターが立地しており、地域の拠点として利用されているほか、道の駅いずみ山愛の里が併設されており、市外からも人が訪れる場所となっています。

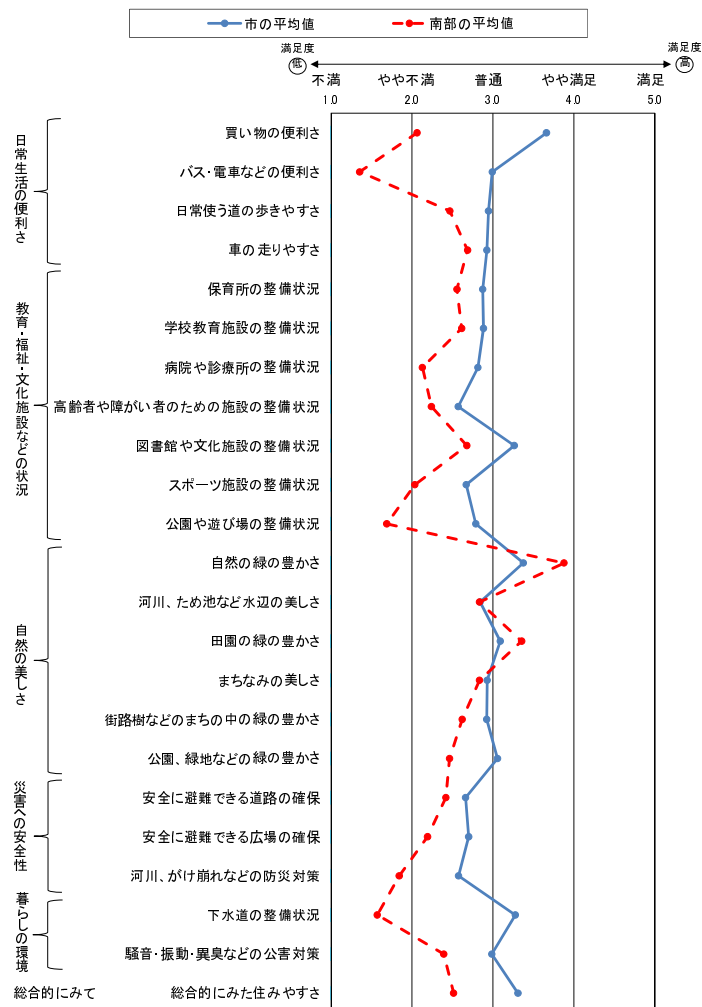
地域の主な資源 (和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査、和泉市観光ガイド、市資料より)

地域で大切にされてきた 歴史文化遺産や寺社	槇尾山施福寺、鳳林寺、阿弥陀寺、満願の滝
公園、緑、水などの豊かな 自然環境	槇尾山グリーンランド、槇尾川、松尾川、槇尾山、南部地域の 山々や自然環境、横山地区の自然、ホテルが生息するまち
歴史的なまちなみや新し いまちなみ、建物	道の駅いすみ山愛の里、和泉市青少年の家、いすみふれあい農 の里
お祭り・行事	笹踊り

③暮らしの満足度 (市民意向調査より)

南部地域の暮らしの満足度に関しては、自然や田園の緑の豊かさについては市の平均値よりも高い値となっています。しかし、それ以外の項目については低い値となっており、特に、バス・電車などの便利さ、公園や遊び場の整備状況、河川・がけ崩れなどの防災対策、下水道の整備状況において満足度が低くなっています。

暮らしの満足度



(和泉市都市計画マスタープラン市民意向調査より)

④地域の課題

1) 生活基盤・住環境の課題

一部の集落では、道路幅が狭く交通安全上の問題があるほか、下水道の未整備地区もあり、快適な生活環境づくりが必要です。また、地域内は概して公共交通（バス）の利便性が低く、少子高齢化と人口減少が進行する中であって、移動に制約の大きい住民（いわゆる交通弱者）への対応が必要となっています。

山地が地域の大半を占めることから、住民の土砂災害等の自然災害への危機意識は高く、減災の考え方に基づく災害対策と自然環境の保全が必要です。

2) 地域活性化の課題

市街化調整区域として開発が規制されている一方で、地域人口の減少は著しく、集落機能を維持するための定住人口の確保が課題となっています。

また、交流人口の確保については、自然や歴史・文化など地域の優れた資源を活用した都市農村交流を進めることが求められます。

現状の国道170号沿道の土地利用及び景観の混乱は、沿道特性を活かした土地利用を難しくしているほか、本市の対外的なイメージの悪化にもつながるものであり、早急な対応が必要です。

3) 地域の拠点の課題

南部リージョンセンターには道の駅が併設され、地域交流と観光の拠点となっており、この施設を拠点とした地域活性化に向けた取組みを継続して行っていく必要があります。

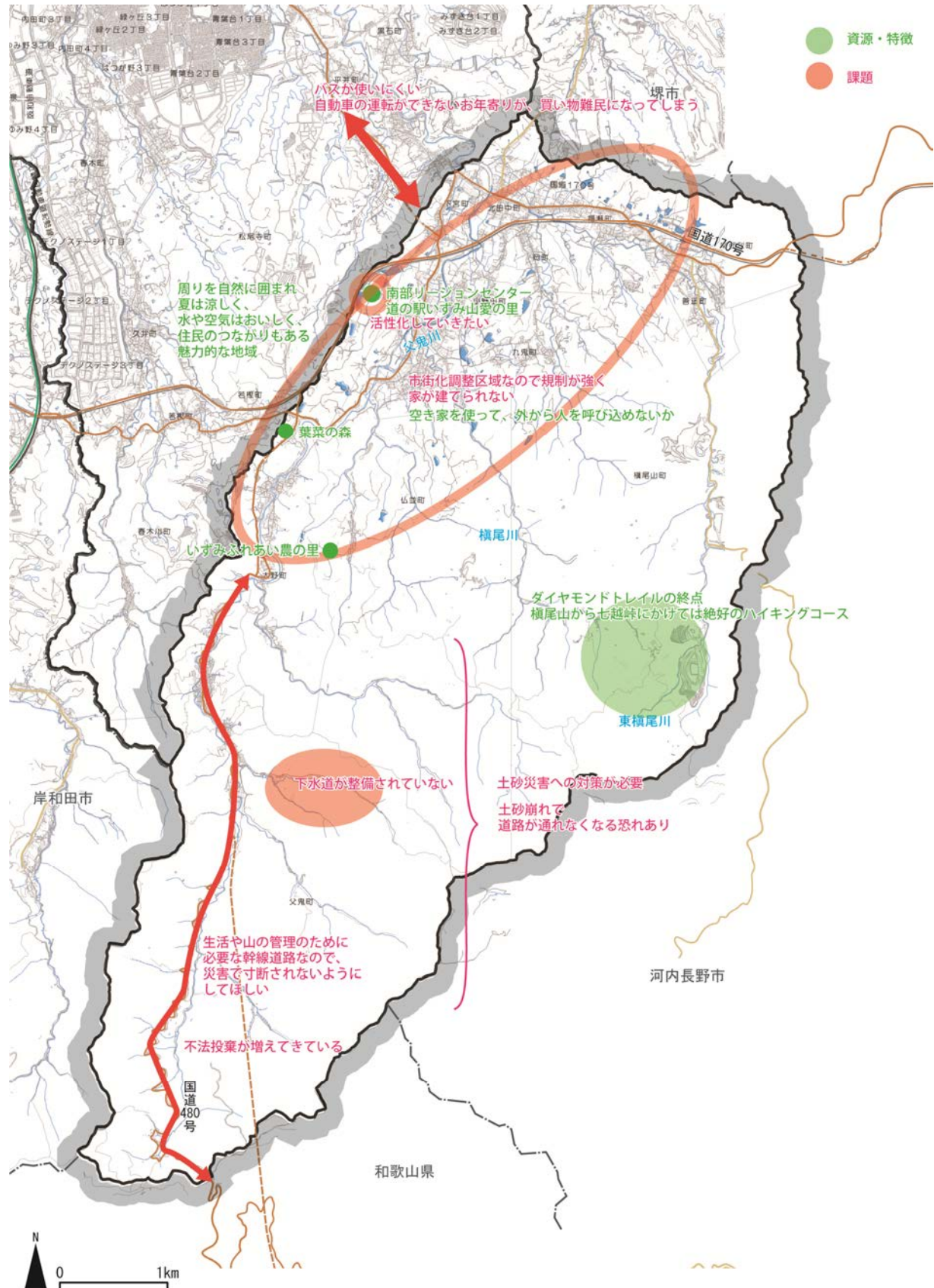
一方、大阪府内では、津波等災害への不安から臨海部から内陸部への企業移転の動向があり、国道170号は4車線化によりポテンシャルが高まりつつあります。こうした、本市を取り巻く広域の動向も考慮に入れながら、地域活性化のあり方を検討する必要があります。

4) 土地利用の課題

山地と田園が地域の大半を占めており、自然環境の保全と田園環境の維持保全を基本に、その中にある一部の集落の生活環境の改善を図る必要があります。

都市計画上は、全域が市街化調整区域であることから、農林業の振興とともに、農林地の無秩序な転用や土地利用を規制し、地域環境の悪化を防止する必要があります。一方で、集落機能の維持や地域活性化の要望に対して、計画的で秩序ある土地利用を図ることが求められます。

参考 ワークショップで出された、地域の主な資源と課題についての意見



⑤地域の将来像とまちづくりの目標

地域の将来像

自然と共生しながら、都市農村交流により、地に足の着いた活性化を目指すまち

まちづくりの目標

- 1) 暮らしやすい地域づくり
- 2) 活力を呼び込む地域づくり
- 3) 地域活性化のための拠点づくり

⑥まちづくりの方針

1) 暮らしやすい地域づくり

ア 集落環境の整備を進めます

- ・下水道の整備、道路・橋梁等生活基盤施設の適切な維持管理、更新を図り、快適な生活環境づくりを進めます。
- ・少子高齢化に伴い移動に制約の大きい住民（いわゆる交通弱者）への対応として、公共的交通手段の確保を図ります。
- ・通学路等については、交通安全施設整備等の手法により、歩行者の通行の安全性を高める対策に取り組みます。

イ 災害への備えを進めます

- ・地域の大半が山林であることから、減災の考え方に基づいて、農林業振興による山林の保全・育成を図るほか、治山・治水対策事業の促進や、土砂災害警戒区域等の指定などの防災対策を進めます。
- ・土砂災害による孤立化が懸念される地区について、大阪府など関係機関との調整のもと、孤立化対策について検討します。

ウ 自然環境の保全・活用を進めます

- ・金剛生駒紀泉国定公園をはじめとする豊かな自然環境について、適切な維持管理や法的規制などにより保全を図ります。
- ・木材や炭（横山炭など）などの利用促進や、小水力発電をはじめとする再生可能エネルギー源としての利用など、環境保全と調和した利用について検討します。

2) 活力を呼び込む地域づくり

エ 人口減少対策のための取組みを進めます

- ・市街化調整区域として市街化を抑制する方向性を基本としつつ、人口減少下における集落機能の維持のため、U・Iターンや田舎暮らし希望者等の誘致施策や空き家活用施策に取り組みます。また、定住を促す開発等の規制・誘導のあり方について検討します。
- ・新しく地域に住み始めた住民も地域コミュニティに参加し担い手となるように、住民相互の理解を広め、誇りと愛着を育むまちづくり活動をしていきましょう。

オ 都市農村交流による活性化を進めます

- ・地域住民との連携によって、地域の優れた自然環境や農産物等を活かした観光、交流、体験などの都市農村交流の活動を進めます。
- ・ダイヤモンドトレールや槇尾山グリーンランド、施福寺、鳳林寺、いずみふれあい農の里など、地域資源の価値を住民自らが再発見し、磨きをかけて、付加価値を付けてアピールすることで、地域の個性として売り出すよう取り組みましょう。
- ・地域住民を主体としつつも、企業や大学、NPO、ボランティアなど、多様な主体との連携によって都市農村交流を促進します。

カ 国道 170 号沿道の景観形成を進めます

- ・国道 170 号は、複数の都市をつなぐ主要幹線道路であり、市外からの来訪者に対して良好なイメージを形成するため、沿道景観の形成に取り組みます。道路の拡幅整備に併せて、資材置き場や廃車置き場、事業場等の堆積物の高さを抑えたり緑化するなど、景観配慮の取組みを促進します。また景観の混乱を防ぐため、地域の合意形成を図りながら土地利用の規制誘導について検討します。

キ 農業の活性化に向けて取り組んでいきます

- ・農業は地域の主要な産業であるとともに、土地利用や景観、緑豊かな環境を形づくる上でも重要な要素です。農地の保全や営農基盤の維持・充実などを進めるとともに、農家を中心に地域内外の多様な人材と連携して、特産品や販売ルートの開発、IT活用やデザイン向上など、農業の付加価値を高める方向で活性化に取り組んでいきましょう。
- ・後継者や営農組織等の育成、新規就農者の受け入れとともに、体験農園や市民農園の設置・運営、農業サポーターやボランティア、大学、企業などとの連携など、多様な担い手が地域農業に関わり支えるような仕組みづくりについて検討していきましょう。

3) 地域活性化のための拠点づくり

ク 南部リージョンセンターを活性化拠点として充実します

- ・南部リージョンセンターは道の駅を併設しており、既に観光・交流の拠点となっています。地域で生産される農産物等を活かすため、直売所や加工施設としての機能を充実します。また、施設の持つ地域交流、地域活性化の拠点機能をより発揮できるような取組みを、手法の検討も含め継続して行っていきます。

ケ 国道170号沿道での産業活力を増進する土地利用について検討します

- ・大阪府や隣接市などの関係機関等と調整しながら、国道170号沿道の広域交通利便性を活かし、市内はもとより大阪府内の産業活力の維持・増進に寄与する土地利用について検討します。
- ・沿道土地利用の経緯と現状を踏まえ、地域づくりとしての合意形成を図りながら、土地利用調整の計画や開発の規制・誘導の制度について検討します。

⑦ 土地利用の方針

○ 田園里山地区

- ・田園や里山を中心とする地区では、市街化は基本的に抑制しつつも定住を促す開発等の規制・誘導のあり方について検討し、人口が維持される持続可能な集落を目指します。
- ・里山については、関係機関と連携しながら農林業振興を図るとともに、気軽に自然と触れあえるレクリエーションの場、自然観察・体験の場、生物生息空間など多面的な活用を図ります。
- ・集落では、幅の狭い道路対策などを図り、持続可能で良好な住環境を目指します。

○ 沿道環境形成地区

- ・国道170号沿道では、景観形成や土地利用の規制誘導について検討するとともに、広域交通利便性を活かした産業活力の維持・増進に寄与する土地利用について検討を進めます。

○ 自然共生地区

- ・山林については、林業の場としてだけでなく、水源涵養や自然景観形成、災害防止など、市全体の貴重な自然空間として保全を図るとともに、自然を活かした地域活性化の場としても活用を図り、地域の資源として適切に保全、活用される山林を目指します。
- ・金剛生駒紀泉国定公園の本市域部分では、森林の適切な維持管理を図り、人々のいこいやレクリエーション、環境教育などに資する自然環境を目指します。
- ・槇尾川ダム計画跡地では、自然環境を活かした緑とのふれあい空間を目指します。

○ その他

- ・横山高校跡地では、スポーツ拠点の形成を図り、市民が気軽にスポーツや健康づくり等に取り組むことができる空間を目指します。

地域別まちづくり方針図（南部地域）

